

## 秋田県東成瀬村の取組

秋田県東成瀬村教育委員会  
教育長 鶴 飼 孝

今日、私が申し上げる内容は「共に学び合う教育」ということでございます。子ども同士、大人同士、子どもと大人、それぞれがお互いから学ぼうというものでございます。

村の施策の基本理念は「人と環境にやさしい協働の村づくり」、教育行政の方針として「村だからできる、やる教育」「社会総参加の教育」「継承と改善」「地域社会づくり」「創意工夫」を標榜して頑張っております。

それでは、三つのテーマについて話をさせていただきます。まず『村だからできる教育、やる教育』というテーマです。言うまでもなく、教育は学習指導要領に沿い教育目標や内容は崩せませんが、地域の実態を踏まえ、特色ある教育をすることが大事だと考えます。まさに地域の主体性が問われており、これをいかに工夫して行うかが我々に課せられた最大の課題ではないかと考えております。

では、具体的にどんな教育をしているのか、12の項目について紹介させていただきます。

1. 「人と人が触れ合う教育」です。少人数の子どもたちに、いかにたくさんの人と触れ合わせるかが、村の大きな課題であります。そこで、できるだけ人と触れ合う機会を設け、共に学ぶということを原点に据えたわけです。

2. 「教職員の一体感」です。他市町村から来た先生方が一体感をもつことが極めて重要だと考えております。村の実態と教育方針・施策を理解するとともに、愛着をもち責任ある教育をしてほしいとお願いしています。

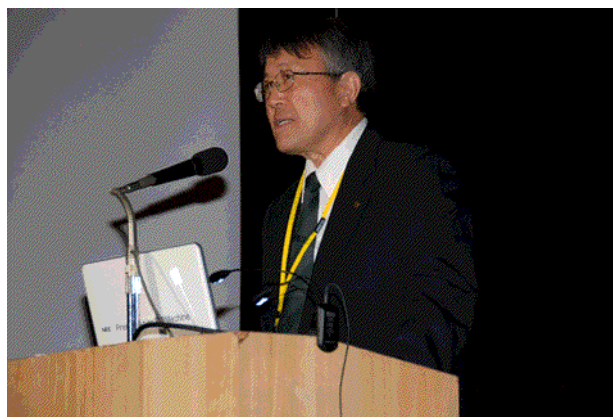
3. 「既存の教材教具を活かす教育」です。学校が統合になり、教材教具が一つに集まります。東成瀬中学校にはグランドピアノが3台あり、学年で1台ずつ活用しています。また、楽器が

たくさんありますから、野球部員もスキー部員も全員が吹奏楽部に所属して郡の発表会に出場します。みんなで共にやったという充実感を味わわせたいと考えております。

4. 「ふるさと教育」です。平成5年から取り組んでおります。ふるさとを知り、愛着と誇りをもって生きていってもらいたいと願っております。その一つとして、子どもたちが作った歌詞に、プロの作曲家である橋本祥路先生に曲をつけていただき、「悠久の風にのせて」というふるさとの賛歌を作りました。

5. 「一貫した子育て支援・教育」です。数年前から就学前の子どもを教育委員会が所管し、保育所、小学校、中学校で一貫した教育と連携がスムーズに行えるようにしております。

6. 「一人一人を磨く教育」です。子どもたちは卒業後、45%ぐらいしか村に残りません。しかし、村に残ろうが世界に出ようが、私たちには賢い人間、社会に貢献できる人間を育てる使命があると考えております。



7. 「地域づくりへの教育」です。人口減が進む中、教育委員会としては交流人口を増やすためにレクリエーション大会等の招聘などを行っております。これには、先生方も地域が元気になるように、積極的にかかわってほしいと願

いしております。

8. 「先達の知恵を借りる教育」です。高齢化が進み三世帯同居家族が多いことから、祖父母学級を行い、学校への協力をお願いしています。

9. 「地域の文化に触れられる教育」です。なかりつつある方言にふれるイベントに子どもたちが参加します。また、ツキノワグマの狩猟や国の重要文化財である磨製石斧等に触れる機会も作っております。

10. 「感性を磨く教育」です。村には美術館や映画館はありませんが、本物に触れみずみずしい感性を育てるために、一流の芸術家や集団を招いて鑑賞できるようにしております。

11. 「子どもの個性の発揮・伸張」です。教育とはつまるところ、個性を伸ばすということではないでしょうか。子ども一人一人のニーズに応えるためには先生だけでは厳しい。そこで、社会総参加の教育を考えているわけです。

12. 「自然に触れる教育」です。周りにある豊かな自然を活かしたブナの植林やイワナの放流など多様な体験を、いかに意味あるもの価値あるものにするかは我々次第だと思っています。

ここで、学力向上について基本的な考えをお話しします。まず、学力向上にこれさえやれば伸びるというものはないということ。花火で言えば、子どもはスターマインを上げることはできないが、線香花火なら負けないようなことはできる。そして、何よりも大事なことは、当たり前前のことを当たり前前のできる子どもを育てるということです。

次に『小中連携教育』というテーマについて紹介させていただきます。一貫校にない連携型の良さは、それぞれが独立しながら共通に手を結べるところは一緒にやるということです。効果としては、一貫した教育ができるため中学校で確実に学力は伸びると思っております。また、異学年交流により社会性、人間性の面でも良い面があり、中1ギャップ解消にも効果があります。また、小中学校の先生方が互いの指導方法や内容を理解するので、相乗効果が高まると考えております。

連携を進めるためには、中核になる組織が重要と考えて、実行委員会と知徳体に対応する三部会を設置しております。大事なことは、枠を外すということです。校種や専門教科の枠を取り外しますと、先生方は校種・教科は違ってそれぞれ力があるわけですから、その力を総合的に活かすことができます。そして、必須な事項として、問題意識が共有できるか、目標をしっかり立てられるか、行動できるプログラムが用意できるかが重要だと思っております。

知育部会では、授業改善をするために、大学教授を招聘して年間3回の授業研究会を行います。指導案は、小中一緒になって検討を重ね、何度でも改正、修正し、授業後にはすぐにグループ毎の会議を行っております。

徳育部会では、心の教育としてキバナコスモス3,000株を国道沿いに植えております。また、学校祭に来場した地域の方々に子どもたちが種を小さな袋に入れてお渡しいたします。「生命に優しい心」「協力する心」「奉仕する心」の三つの心がメッセージとなっております。

体育部会では、小学校の低学年はグラウンドゴルフ。小学校四年生から中学校三年生までパークゴルフを行います。これにはもちろん地域の方がたくさん参加してくれます。

いただいたテーマの最後は『外部講師の活用』です。ねらいは、一人一人の個性を發揮させたい、教育力を活かし地域づくりに貢献させたい。子どもに人のシャワーをたくさん浴びせたい。そして、学校を理解して応援団になってもらいたいということです。学校支援ボランティアには約230名の登録があり、読み聞かせなどの学習支援や、環境整備、登下校見守り隊などがあります。具体的には、小学校では蛍の飼育、中学校では紙漉で卒業証書を作っています。また、福祉施設訪問や栗駒登山、ネパールの僧侶やオリンピック選手から学ぶ機会等も設けており、学校行事や教科の授業と関連して様々な方にご指導いただいております。

以上で私の村の紹介は終わります。ありがとうございました。